

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1751580182		
法人名	医療法人社団 同朋会		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地 (電話番号)	羽咋郡志賀町仏木ク15-20 (電 話) 0767-37-1122		
評価機関名	(有)エイ・ワイ・エイ研究所		
所在地	金沢市高尾台1丁目442番地 ベネフィットステージ4F		
訪問調査日	平成20年12月22日	県への評価報告日	平成21年2月28日

## 【情報提供票より】(20年12月1日事業所記)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人	

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,250 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢	平均 86.3 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	四蔵医院 恵寿総合病院 山岸歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、「ゆっくり」「共に支えて」「理解する」のホーム独自の理念をつくりあげ、その実現に向けて日々取り組んでいる。意見箱の設置やアンケート調査を実施し、ご家族の意見、不安、苦情等を引き出し、サービスの向上に繋げている。また同一敷地内に診療所と老人保健施設があり、利用者の医療、健康面や緊急時での対応に対する支援体制が確保され、利用者が安心して生活できる環境が整っている。研修にも積極的に取り組み、職員の資質のレベルアップを図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を踏まえ、ホーム独自の理念をつくりあげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価の必要性を理解し、日々の利用者との関わりや業務内容を再検討し、改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には家族、民生委員、町担当者、ホーム関係者が参加し、ホームの取り組みや行事の報告などについて意見交換が行われている。今後は開催回数を増やし、そこでの意見をサービス向上に活かしていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の面会時に意見等を聞くように努めている。また意見箱の設置やアンケート調査でご家族の意見等を引き出すようにしている。アンケートの結果や改善事項をご家族に報告し理解と意見ををもとめている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の敬老会への参加や法人の夏祭りへの住民の参加を通じて交流が行われている。今後は町会、民生委員等との連携を深め、ホームの理解と交流を進めていくことを期待する。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
<b>1. 理念と共有</b>								
		(1)地域密着型サービスとしての理念				地域密着型サービスの考えを反映した、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
①	①	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○					
		(2)理念の共有と日々の取り組み				事務所内の掲示や申し送り、ミーティングなどで意識づけを図っているが十分とはいえない。	○	日々の業務の中で職員同士がチェックし合う姿勢が望まれる。
②	②	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		○				
<b>2. 地域との支えあい</b>								
		(1)地域とのつきあい				地域の敬老会への参加やホームの納涼祭への住民の参加等、行事を通じての交流を行っている。グループホームや認知症の理解は深まっていない。	○	回覧板の活用や町会、民生委員との交流を通じて、ホームの理解を高めることを期待する。
③	⑤	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		○				
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>								
		(1)評価の意義の理解と活用				職員は評価の必要性を理解し、日々の利用者との関わりや業務内容を再検討し、改善に取り組んでいる。		
④	⑦	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○					
		(2)運営推進会議を活かした取り組み				会議には民生委員、家族、町担当者、職員が参加し、ホームの活動状況や評価の結果、改善等が報告されている。	○	会議の開催回数を増やし、そこの意見等をサービスの向上や運営に活かしていただきたい。
⑤	⑧	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている		○				
		(3)市町村との連携				グループホーム連絡会の設置を町当局に働きかけている。		
⑥	⑨	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>								
		(1)家族等への報告				面会時に利用者の状況を報告している。また状態が急変した時などはその都度電話等で報告している。	○	定期的な報告の検討が望まれる。
⑦	⑭	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている		○				

外部	自己	項目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
⑧	⑮	(2)運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○			面会時にご家族の意見、苦情等を聞くように努めている。意見箱を設置し意見が出しやすい工夫をしている。年1回アンケート調査を実施し、ご家族に結果及び改善内容を報告している。		
⑨	⑯	(3)職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○			職員の異動は最小限にし、馴染みの職員が支援するようにしている。新規採用の場合は1ヶ月の研修期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援								
⑩	⑰	(1)職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○			年間の研修スケジュールに沿って、法人内研修を行っている。また外部の研修についても、職員、パートの区別なく機会の提供を行っている。		
⑪	⑱	(2)同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			○	地域の同業者との交流は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
⑫	⑳	(1)馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○			入所前に事前見学や事前面接、体験入所を実施し、ご本人、ご家族が納得したうえで利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
⑬	㉑	(1)本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○			利用者は調理や掃除を手伝ったり、ころ柿や梅干の作り方を教えてくれる。また昔の体験談を話したり、書道の得意な方が職員に指導するなど、支えあう関係ができている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
⑭	㉒	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○			日々のコミュニケーションを通じてご本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は動作や表情から判断するとともに、ご家族からの情報収集を行っている。		

外部	自己	項目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
⑮	⑳	(1) チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○			ご本人やご家族の希望を基に、職員間で話し合い、ご本人の思いや暮らしを反映した具体的な計画を作成している。		
⑯	㉑	(2) 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○			計画の見直しは基本的には3ヶ月に1回だが、状態の変化に応じて随時行っている。その時はご本人、ご家族、職員が話し合い、状況に応じた新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
⑰	㉒	(1) 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○			通院、買物、銭湯のサービス。2ヶ月に1回の外食を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
⑱	㉓	(1) かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○			ご本人、ご家族の希望するかかりつけ医となっている。敷地内に診療所があり、受診、往診が随時可能であり、適切な医療を受けられる体制が整っている。		
⑲	㉔	(2) 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○		終末期に向けた指針は作成されているが、医師、職員で方針の共有が十分図られていない。	○	医師、職員と方針の共有を図っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
㉕	㉕	(1) プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		○		利用者の誇りやプライバシーを損ねる言葉使いや対応には常に配慮しているが、職員間では徹底が不十分な場合がある。	○	職員のプライドやプライバシーへの意識を高める教育、研修等の取り組みを期待する。

外部	自己	項目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容-実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		(2)日々のその人らしい暮らし						
②	⑤	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○			利用者一人ひとりの生活のリズムを大切に、希望に応じた外出等、利用者本位の生活を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
		(1)食事を楽しむことのできる支援						
⑭	④	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○			献立は栄養士が1週間単位で作成し、利用者の希望を出来るだけ取り入れるようにしている。調理、後片付けは職員と一緒に、職員と楽しそうに食事をしている。		
		(2)入浴を楽しむことができる支援						
⑮	⑤	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○			入浴は週5回、13時から16時に行っている。希望があれば午前中でも毎日でも可能である。変わり湯で入浴に変化をつけ楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
		(1)役割、楽しみごと、気晴らしの支援						
⑳	⑤	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○			食事の手伝い、外出、園芸、書道、掃除等個々の生活歴や得意なことを活かした役割、楽しみを提供している。		
		(2)日常的な外出支援						
㉑	⑥	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○			利用者の希望に応じ、買物、外食、美容院、散歩等の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援								
		(1)鍵をかけないケアの実践						
㉒	⑥	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○			日中は施錠していない。職員は鍵をかけることの弊害は理解しており、見守りに努めている。		
		(2)緊急時等の対応						
㉓	⑩	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対する体制が整備されている。	○			併設の老人保健施設、診療所との協力体制が整備されている。またマニュアルも作成され、職員への周知を図っている。		
		(3)バックアップ機関の充実						
㉔	⑦	協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で支援体制が確保されている。	○			同一敷地内に老人保健施設、診療所があり、支援体制が確保されている。		

外部	自己	項目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	㉘	(4)夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている。	○			夜間における緊急時には、併設の老人保健施設や診療所の応援体制が確保されている。		
	㉙	(5)災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		○		年2回防災訓練を実施しており、そのうち1回は消防署の立会いのもと行っている。地域住民は参加していない。	○	地域住民も参加する訓練の実施が望まれる。
	㉚	(6)災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている。		○		マニュアルは整備されているが、職員への周知が十分とはいえない。周知の徹底が望まれる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	㉛	(1)栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○			老人保健施設の栄養士の指導を受け、食事及び水分摂取状況を把握し支援している。また体重測定を月1回行い、増減をきめ細かくチェックし、支援に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	㉜	(1)居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○			建物全体が明るく、共用空間は花や装飾で季節感や生活感をとりいれている。畳コーナーも設置されている。		
	㉝	(2)居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○			居室は使い慣れたものや好みのものを置き、ご本人の居心地の良い生活空間になるよう工夫している。		